

150 TWILIGHT CONCERT

ターリヒ・カルテット ― チェコの名門四重奏団

入 場 無 料

2026 年 11 月 10 日（火）

開演 18:30（開場 18:00）終演 19:30

三井住友銀行東館ライジング・スクエア 1 階 アース・ガーデン
千代田区丸の内 1-3-2 （地下鉄 大手町駅下車 C14 出口）



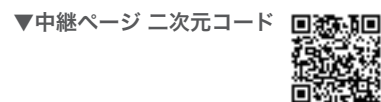
TWILIGHT CONCERT オンライン視聴について

本コンサートは、オンライン中継も行っています。

PC (Windows および Mac)、タブレット、スマートフォンにて
下記サイトへアクセスしご視聴いただけます。

※大量の通信容量が必要になるため、Wi-Fi 環境での視聴を推奨しています。

▼中継ページ URL <https://pr.ij.ad.jp/live/>



主催

株式会社インターネットイニシアティブ (IIJ)
<https://www.ij.ad.jp/>



インターネット黎明期の 1992 年、日本でインターネットを普及させるという構想を持った技術者が集まり、IIJ は設立されました。誰もが安心して使える社会基盤としてインターネットが発展するよう、IIJ は卓越した技術力で、現在も技術開発を先導しています。

協賛

株式会社三井住友銀行 大手町エリア・本店営業部・東京営業部
<https://www.smbc.co.jp/>



制作協力

東京・春・音楽祭実行委員会
<https://www.tokyo-harusai.com/>



創立 60 年を超えるチェコの名門、ターリヒ・カルテット。
伝統に根ざした気品あふれる響きと緻密なアンサンブルで、
ドヴォルザークとベートーヴェンの名作をお届けします。

曲目

ベートーヴェン：

弦楽四重奏曲 第 8 番 ホ短調「ラズモフスキー 第 2 番」op.59-2

- I. Allegro
- II. Molto adagio
- III. Allegretto-Maggiore
- IV. Finale: Presto

ドヴォルザーク：

弦楽四重奏曲 第 12 番 ヘ長調「アメリカ」op.96

- I. Allegro ma non troppo
- II. Lento
- III. Molto vivace
- IV. Finale: Vivace ma non troppo

TWILIGHT CONCERT について

コンサートホールから 大手町オフィス街へ「音楽のおくりもの」

大手町の三井住友銀行ロビーで、2008 年より毎月 1 回「ゆうべの音楽」をテーマにしたコンサートをお届けしています。仕事のあと、あわただしかった一日のおわりに、心地よい音楽で心の充電をしませんか。CD やテレビでは味わえない、生の演奏の素晴らしさを感じてください。

ターリヒ・カルテット（弦楽四重奏）

第1ヴァイオリン：ヤン・ターリヒ
第2ヴァイオリン：ロマン・パトチカ
ヴィオラ：ディム・セドミドゥプスキ
チェロ：ミハル・カニユカ

ターリヒ・カルテットは半世紀以上にわたって一流演奏家としてその進化を続けており、世界中でチェコの音楽芸術を代表する存在である。

何十年もの間、ターリヒ・カルテットは世界でも特に優れた弦楽四重奏団のひとつとして、また、偉大なチェコ音楽の伝統を体現する存在として、国際的に認知されてきた。同カルテットはヤン・ターリヒ・シニアがブラハ音楽院在学中の 1964 年に設立。彼の叔父でチェコ・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者（1919 ～ 1939）として名を馳せたヴァーツラフ・ターリヒへの敬意をこめて名づけられた。1990 年代徐々に進んだ交代で完全にメンバーは入れ替わり、すっかり新しくなったカルテットだが、幅広い音楽活動とレコーディング活動によって先達の伝統を守り続けている。現在第 1 ヴァイオリンを務めるヤン・ターリヒ・ジュニアは創設者の子息である。

パブロ・カザルス音楽祭（ブラード）、ブラハの春音楽祭、ティボール・ヴァルガ音楽祭、オタワ国際弦楽四重奏フェスティバルなど、名だたる室内楽フェスティバルの常連で、マルタ芸術祭、クフモ室内楽フェスティバル（フィンランド）にも参加。また、ニューヨークのカーネギー・ホール、パリのシャゼリゼ劇場とサル・ガヴォー、ロンドンのウィグモア・ホール、アムステルダム・コンセルトヘボウといった著名ホールでの演奏も続けている。

2015 年 5 月にはドヴォルザーク弦楽四重奏曲第 10 番・第 11 番の CD が BBC ミュージック・マガジンの五つ星を獲得。更に、フォーブス誌 2014 年 12 月号は、ヤナーチェクとシュルホフの弦楽四重奏曲の録音をクラシック音楽(再発版)部門の 2014 年第 2 位に選出。近年は、スメタナ、ドヴォルザーク、ヤナーチェク、カリヴォダ、フィビフ、シュルホフ、シュベルト、ブラームス、ドビュッシー、ラヴェル、ショスタコーヴィチなどを録音している。

2018 年にはヴィオラのヴラディミール・ブカチュが離脱し、その後任としてラディム・セドミドゥプスキ（シュカンパ・カルテット、パヴェル・ハース・カルテットの元メンバー）が加わり、第 2 ヴァイオリンにはブラハ交響楽団第一コンサートマスターのロマン・パトフカが、さらに 2019 年からはチェコを代表する世界的チェリストでブラハの春国際コンクール会長・同音楽祭芸術委員をも務めるミハル・カニユカが参加することとなり、より強固な体制を確立。欧米各国で活発な演奏活動を展開。2024 年秋には創立 60 周年記念日本ツアーを行い、各地で大好評を博した。